

# 物価高に負けるな！ 学生に食料支援

学生生活を支えることを目的とした食料支援が、今年度は5、6、10、12月に実施され、生田・神田両キャンパス合わせて延べ4,642人が食料や生理用品を受け取った。提供された物資は育友会などの援助金で購入した物に加え、入替対象となった学内防災備蓄品のアルファ米なども活用された。

沖縄県出身の栗原空楽さん（経営1）は「きちんと食べてるか、親にも心配される。レトルト食品も提供してくれるので、とても助かる」と、岐阜県出身の中村大輝さん（経営1）は「切り詰めても週に数千円は食費にかかるので、ありがたい」と話す。

食料支援を受けた学生へのアンケート調査では、自分の経済状況を「苦しい」・「やや苦しい」と46.3%が回答。その理由は、物価上昇が71.6%、アルバイト収入の減少が41.8%、仕送りなどの援助の減少が17.9%だった。



↑ 昨年10月26日(木) 生田キャンパスで支援品を受け取る学生



← 提供された食料の前に栗原さん(左)と中村さん

## 財布と体に優しい「応援ランチ」

ボリューム満点の定食が格安の300円で食べられる「応援ランチ」を、昨年12月11日から今年1月12日にかけて神田・生田両キャンパスの食堂で実施。栄養価の高い食事を学生にしっかりとってもらうためのもので、育友会が資金提供した。



↑ 神田ラ・ポルト・ノアール



↑ 生田 CABIN

## 悩みに気づき、支えるゲートキーパー研修

悩んでいる人に寄り添い、支えとなる存在である「ゲートキーパー」についての研修会が、神奈川県・川崎市・学生相談室の共催で、昨年12月21日(木)に生田キャンパスで開催され、学生、教職員53名が参加した。講師の小高真美武蔵野大学教授は、「さまざまな生きづらさを抱える人々が自殺にまで追い込まれない社会を構築するためには、お互いに支え合うことが大切。悩んでいる人のサインに気づき、声を掛け、話を聞いてほしい」と参加者に話した。研修会の後半には、悩んでいる人への声掛けを想定したシミュレーションをグループで行った。

グループワークを終えて石井徹平さん（ネット3）

は「相手の苦しみにどう寄り添えばいいのかを学ぶことができた。教職課程を履修している身としては、教師の立場で生徒とどう接するかも考えたい」と語った。



↑ グループワークを実施。中央が石井さん